

今週のメニュー

■トピックス

◇PVC News No. 80を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

■随想

◇マリ共和国旅行記（４）－市場－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■編集後記

■トピックス

◇PVC News No. 80を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

3月19日に塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は[PVC News No.80](#)を発行しました。今まで「有識者に聞く」というコーナー名で様々な方に登場頂きましたが、今回から「シリーズインタビュー/さきがけびと登場」とタイトルを変えました。沖縄こども未来ゾーンで、こどもたちに感じる力と考える力を育てようと活躍する宮城さんに「さきがけびと」としてたくさんお話を伺いました。

トップニュースは特集として東日本大震災から1年と題し、水道復旧と仮設住宅建設に尽力した「全国管工事業協同組合連合会」と「社団法人プレハブ建築協会」の二つの団体の活動を紹介しました。

No. 80号の構成は以下の通りです。

○トップニュース

特集－東日本大震災から一年－

- ・全国管工事業協同組合連合会の水道復旧活動
- ・(社)プレハブ建築協会の応急仮設住宅建設活動

○シリーズインタビュー/さきがけびと登場

「育て！人間力豊かなこどもたち」

(財)沖縄こども未来ゾーン運営財団 宮城 孝子 氏

○リサイクルの現場から

「被災塩ビ管」のリサイクルに取り組む相馬市役所

大震災の傷手を撥ねのけて資源を有効利用。新潟県長岡市からの応援も

○インフォメーション

ぶつかってもケガしない！人にやさしい「エアバッグカー」完成

広島大学発のベンチャー企業 (株)HUMANIX（代表升島教授）による世界初の快挙。モニター販売もスタート。

○広報だより

- ・「上田学園コレクション2012」の会場から
塩ビ素材を用いた「ワマリマワル」が上田康子ブランド大賞を受賞
- ・国内最大級の環境展「エコプロダクツ2011」に出展

掲載記事をいくつかご紹介いたします。

「トップニュース」は、東日本大震災から一年が過ぎたことを念頭に置き、まず全国管工事業協同組合連合会の水道の復旧活動を紹介。震災発生の翌日には救援対策本部を立ち上げ、被災地へ迅速に向かい給水及び配水管の復旧に尽力したことを紹介。

一方、仮設住宅の建設では、社団法人プレハブ建築協会が各都道府県と個別に災害協定を締結しており、この協定を元に仮設住宅の建設が進められました。

いずれの協会も迅速な対応が出来た理由として、平時の備えの重要性を力説されました。

「シリーズインタビュー/さきがけびと登場」では沖縄こども未来ゾーン運営財団の「たかごん」こと宮城孝子さんにインタビューをしました。宮城さんは沖縄市こども科学力向上事業の担当として、沖縄未来ゾーンのメイン施設のワンダーミュージアムの展示やワークショップの開催などを通して、こどもの科学力を育てて芽を出すための活動をしていらっしゃいます。

「リサイクルの現場から」は被災地でのリサイクルに取り組んでいる相馬市を紹介しました。

相馬市は被災した塩ビ管をどのように処理するか議論をし、県もリサイクルを推進しているということもあり、リサイクルに取り組むことになった経緯を詳しくお聞きしました。塩ビ業界が新潟県中越地震後に協力した長岡市との連携も生かされています。

「インフォメーション」では、広島大学の升島先生が取り組まれている、人にやさしい「エアバッグカー」を取り上げています。ボディ全体をエアバッグで覆うことで、衝突したときに歩行者を怪我から守るという画期的な電気自動車を紹介しています。

今号80号で平成3年6月の創刊からちょうど20年が過ぎようとしています。これも皆さんのご協力あってのこと。心から御礼申し上げます。

『PVCニュース』はJPECのホームページから、最新号、バックナンバー共にご覧頂けます。

<http://www.pvc.or.jp/>

ご購読を希望される方は、下記メールアドレスまで、送付先・TEL・希望部数などをご連絡下さい。

info@vec.gr.jp

■ 随想

◇マリ共和国旅行記（４）－市場－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

マリ共和国、もちろんスーパーマーケットはあります。しかし、それは日本で言う高級スーパー。一般の人が通常の買い物に訪れる場所ではありません。

一般の人の買い物の場所と言えば市場です。私も世界各国の色々な市場に行きましたが、マリ共和国の市場は凄いです。下水が整備されておらず、汚水が道に溢れているにもかかわらず、その上にボロボロのビニールシートを敷いて野菜や食料品を並べて売っています。しばらくすると、並べている品物の下には汚水が浸み出し。。

海魚は海がないため干物です。生で売っているのはニジェール川などで採れた川魚ですが、35度を超える炎天下、そのまま木の板の上に並べられ、ハエがたかっています。氷で冷やすなどということはしません。乾燥を防ぐため、野菜や魚に水をかけているのは見ました。朝採れた魚なのかもしれませんが、昼過ぎになるとかなり強烈な臭いが。。

肉屋さんも同様で大きな塊のままぶら下げてある肉はいいとしても、細切れにされた内臓や小さな肉は強烈な臭いを放っています。

市場は基本的に露天ですから、冷凍ケースなどあるはずもなく、常温で並べられています。本当に朝早く買い物に行けばいいのですが、昼頃になると“新鮮”とは程遠い状態になります。いくつかの市場を見ましたが、どこも同じような売り方をしています。

もちろん、スーパーマーケットで売られている魚や肉は日本と同様、冷凍ケースに入られているのでそのようなことはありません。

そのせいか、マリ共和国の料理はどれもよく火が通っています。魚は干物も生魚も焼くのではなく油で揚げます。それも、中までよく熱が通るよう、カリカリになるまで揚げます。あそこまでカリカリに揚げてしまうと、どの種類の魚も、ほとんど同じ味になってしまいます (>_<)

バナナはそのまま食べるのと、やはり油で揚げるときがあります。油で揚げたバナナフライは、そのまま食べるのではなく、切れ目を入れたフランスパンに挟み、バナナフライサンドイッチにして食べます。以前、ウガンダでもバナナサンドイッチがありましたが、こちらは生のままのバナナを挟んでいました。

バナナはあそこまで強く揚げなくてもいいと思うのですが、やはりカリカリになるまで揚げます。日本人が揚げているときを見ないで、黙って出されたら、フランスパンに塩気のない厚切りポテトチップスが挟んであるサンドイッチだと思い、バナナフライサンドイッチとは気が付かないかもしれません。

肉は炭火でしっかり焼きます。中まで火が通り、表面は焦げ目というより、炭化して真っ黒になるまで焼きます。串焼きを何種類か頼んでも、出されたものは真っ黒で、食べてみないと見た目では何の肉か分かりません。

トウモロコシもしっかり焼きます。炭火の上に網を乗せ、その上で焼くなどという面倒なことはしません。真っ赤に燃えた木炭の中にトウモロコシをそのまま突っ込み、うちわでバタバタ扇ぎます。全体が焦げて真っ黒になったら出来上がり。

まあ、これも生活の知恵なのかもしれません。
ここまで読むと、マリ共和国って美味しい料理はないの？ と思ってしまわれたかもしれません。そんなことはありません。

日本で言うシチュー。これは美味しいです。鶏肉や牛、羊、ヤギなどの肉と豆や野菜を香辛料とともによく煮込んだものをお米かクスクスに掛けて食べます。香辛料を使っているといってもインド料理のようにホットなわけではなく、肉の臭みをうまく消して、野菜の味を程よく引き立ててくれます。

強いて言うなら、日本の洗面器にそっくりな食器(マリ共和国では一般的な食器ですが、多分、日本で売っている洗面器と同じもののはずです)ではなく、ちゃんとしたお皿で食べたかった。

それと、さすがに旧フランスの植民地。フランスパンの美味しいこと。太さはフランスのものと変わりませんが、マリ共和国のフランスパンは長い！ 1.2メートル以上あり、フランス人も驚いていました。そういえば、クロワッサンは見掛けませんね。マリ共和国の人の口に合わなかったのかな？

もちろん、日本と同じようなレストランや、フライドチキン、ハンバーガーショップもあります。

夜、フランス料理のレストランで食事していると、デートらしい、思い切りおしゃれをしたカップルが、ここでは何を注文して、どうやって食べるのかなと、キョトキョトして、一つ一つお店の人に聞きながら食事をしていました。

男性は飲み物に赤ワインを選びました。初めて飲むらしく、光りに透かし、匂いを嗅ぎ、恐る恐るグラスを口に。口に合わなかったのかなあ。思い切り顔をしかめていました。私も試しに同じワインを持ってきてもらいましたが、癖もなくかなり軽い、飲みやすいワインでした。

女性は、何を頼んでいいのかわからず、結局、頼んだのは牛乳。ウ〜ン、フランス料理に牛乳ですか (^_^;

まあ、美味しく、二人の楽しい時間が過ごせれば、それだけで十分かな。

日本人から見れば格安でこんなに美味しいフランス料理が食べられるなんてと感動する価格(ワインやデザート込みのフルコースで 2,500円程度)ですが、マリ共和国の人の平均年収(100,000円程度)からすればとんでもない金額です。かなり貧富の差が大きい国なので一概には言えませんが、あのカップルもかなり頑張っ、フランス料理を食べに来たのかなあと思っています。

(つづく)

前回：[「マリ共和国旅行記」\(3\) -通貨-](#)

■ 編集後記

まもなくお彼岸も過ぎようとしているのに、今年は寒さが続きます。しかし、チューリップやヒヤシンスの芽が出、クロッカスの花が咲き始め、春が近いことを実感します。本号でご紹介した PVC News には東日本大震災直後のインフラ復旧活動に関わられた方々のご苦勞が紹介されています。「平時の備えこそ迅速な災害対応の決め手」とのこと、同感です。



早く春になり、被災された方々のご苦勞が少しでも減り、復旧活動も捗ってほしいものです。(可)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp